令和２年度　都城市立山之口小学校　学校評価報告書

評価　４：十分に達成　３：おおむね達成　２：努力を要する　１：取組の内容の修正・変更を要する

項目	重点指導項目	方策・手立て	成果・課題及び改善策	総合	学校運営協議会委員の意見	委員の評価
豊かな心の育成	基本的な生活習慣定着・規範意識の醸成	あいさつや言葉遣い、廊下歩行など基本的な生活習慣の定着を図る。	本項目の職員評価（4 段階）は 2.3 であった。4 月当初のあいさつについては、しなかったり、声が小さかったり、地域の方や職員に自分からあいさつできなかったりの状況があり、学校では全校集会や各学級で機会あるごとに自分から先にあいさつをすることの大切さを指導してきた。さらに、登校時の正門下での立番指導、児童玄関でのあいさつ指導、山之口地区のあいさつ運動、地域の見守り隊の皆様の声かけ等を通して指導を行ってきた。その結果、年度当初に比べ、少しずつ改善されてきているが、まだ、継続的な指導が必要である。 廊下歩行については、１学期反省のあと、職員の意識も高まり、共通理解・共通実践で改善の兆しが見られた。まだ、指導の手を緩めると元に戻ってしまうので継続して徹底的に指導していきたい。児童会でもストップ 10 カードを作成し、走っている児童に渡すなど、全校児童の意識を高めようと取り組んでいる。「だれでも、いつでも、どこでも、その場で指導」をモットーに、廊下歩行のやり直しや声かけを行い全職員で指導している。	3	**【肯定的な意見】** ・「心」の育成は、人との様々なつながり、諸活動の中で育まれるものだと思います。今年度はコロナ禍のため制限があり、先生方も苦労されたことと思います。その中でもできることを前向きに取り組まれていることに頭が下がります。 ・走ったり、跳ねたり、調子外れの大声を発するのは、児童に備わっている本能なのですが、学校内では静かにすることを教育することが先生方の役割であり、指導が大変なことは十分理解できます。 ・相手を思いやる心の育成については、学校の取組が機能しており評価できます。 ・いじめ対策については、早期対応の手立てが十分取られていてよい。 ・下校時に見守り指導を行っているが、当初は私の方から「こんにちは」と声かけをすることが多かったが、最近はほとんどの児童が自分からできるようになってきた。また、登下校時に上級生が下級生のお世話や指導をして歩いている姿をよく見かける。 ・いじめ等の問題は学校側でも見つけにくいものであるが、様々な方法で発見に努められていてよい。 ・学校を訪問したときや授業参観日等で会うと、毎回、子どもたちは大きな声で挨拶をしてくれます。先生方の指導の成果です。 ・年度当初に比べて、地域の方に挨拶する児童が格段に増えてきた。挨拶は個々の性格もあるので、一人一人の気持ちも理解していきたい。 ・望ましい人間関係の醸成は、内面が外に表れるものとしての言葉遣いの指導「君」「さん」付けの指導はよい取組です。 ・いじめ等の早期発見として、アンケート調査に親子で回答する取組はとてもよいと思います。継続して行ってほしいです。 **【課題や今後の要望】** ・コロナの偏見や差別の問題は見えにくいのですが、山之口地区でも「あそこが、ここが」と噂が飛び交っています。この噂が、子どもの差別やいじめにつながらないか心配しています。 ・自分本位が主流、それが今の世相です。学校内という団体行動の場は、自分以外の人間と切磋琢磨することを身体で覚える場であるので引き続き指導をお願いしたいです。 ・ボーイスカウトやガールスカウトは自然体験の中で仲間との絆を深めるすばらしい活動です。学校でも自然の中で、児童同士がふれあい交流し合える活動を取り入れたり、地域の行事にも多くの児童が参加したりすることを望みます。 ・仲間に弱い人がいたら寄り添って慰め、慈しむのが本筋で、なじって、いじめるなどは最低の行為だと徹底して教えていただきたい。 ・あいさつに関しては「率先」して行うことは、まだ、弱い気がします。 ・福祉教育関連は今後 SDGs の考え方を取り入れてほしい。 ・児童会での話合いやストップカードの活用など課題を子どもたち自身で解決しようとする取組にもっていかれた指導はすばらしいが、ストップカード等の取組が行き過ぎないように継続して見守りをお願いします。 ・外部講師を招聘しての福祉体験や福祉施設の訪問は大変よい取組であり、コロナが収束後はぜひ、活動を再開してほしい。 ・思いやりの心の育ち方は家庭環境にもあると思うので、家庭教育学級などの学びの場を通して親子で向き合ってほしい。 ・福祉教育や体験活動については、自分から「やろう」という気持ちを大切にし、一時的でなく継続することで子どもたちが自分の「よさ」を見つけられるような取組を行ってほしい。 ・いじめは表面化しにくく、先生方も大変なことと思うが、子どもの思いにしっかり寄り添って対応していただいきたい。 ・基本的な生活習慣の定着を図るには、保護者（家庭）の力を借り「一日の始まりは家庭から」を進めたらよいと思う。ここを抜いての定着は難しいかと思います。 ・福祉教育や体験活動は実践力が必要です。自分から進んでやる心をどう育てるかが課題かと思います。	3.1
	相手を思いやる心の育成	相手の立場に立つ指導の強化と様々な交流の充実を図る。	本項目の職員評価（4 段階）は 2.6 であった。学校では、道徳科や学級活動を中心に、具体的な指導を行ってきた。また、すべての教育活動で、相手の立場に立ち、「自分が人からしてほしくないことは、人にもしない。」ことの指導をし、特に 4 月からは全校集会や各学級で繰り返し指導を行ってきた。しかしながら、自分がしてほしくないと思うことであっても他の人に対して行うことで、嫌な思いをさせていることは本校でも起こっている。特別活動や学級経営において、望ましい人間関係の醸成のための工夫・改善を図っていく必要があり、日常の取組が大切になる。３学期からは、名前の呼び捨てに続く言葉遣いが荒くなることから、まずは、友達を呼ぶときに「君」「さん」を付ける指導を徹底する。	3		
	福祉教育や体験活動による心の教育推進	JRC 活動や福祉教育、体験活動を充実させ、児童の心を耕す。	本項目の職員評価（4 段階）は 2.5 であった。毎朝のボラティア活動、募金活動、一人一鉢活動等をすることで人を思いやる意識を高め、実践力が身に付くよう指導を行ってきた。山之口小伝統の「朝のボラティア活動」では、1 年生から 6 年生まで、自主的に運動場に出て、草抜きや落ち葉拾いを行うことができた。 青少年赤十字（ＪＲＣ）活動の実践目標である健康・安全（いのちと健康を大切にする）、奉仕（人間として社会のため、人のためにつくす責任を自覚し、実行する）、国際理解・親善（広く世界の青少年を知り、なかよくたすけあう精神を養う）と実践している活動を結び付けて児童の意識を高める必要がある。 福祉体験学習では、第 3 学年の総合的な学習の時間において、外部講師を招聘して「認知症サポート養成講座」や「盲導犬学習」、「ひばり苑訪問」等を行い、福祉教育の充実を図る計画であったが、本年度は新型コロナウイルス感染防止の観点から全て中止になった。	3		
	いじめ等の未然防止と初動による適切な対応	いじめ等の未然防止の取組を充実させるとともに事案発生の報告･連絡･相談体制の整備と確実で丁寧な初動対応を実施する。	本項目の職員評価（4 段階）は 3.3 であった。全校集会や道徳科や学級活動を中心として、学級経営においても望ましい人間関係の醸成のための工夫・改善を図っていじめ等の未然防止に努めている。 毎月アンケートを実施し、6･11･2 月は保護者と一緒に児童が回答するアンケート、児童が相談したい職員を書いて回答するアンケート、児童が学校で回答するアンケートと、方法を変えて実施している。また、教育相談を実施し、友達関係の悩みや不安を担任が把握するようにしている。さらに、保護者からの情報も得ながら、いじめの早期発見と初動の適切な対応を行っている。いじめの認知については、積極的に行い、事案解消に向けて確実で丁寧な対応を行ってきている。	3		

確かな学力の定着	諸調査の経年変化の分析と活用	CRT検査の経年変化から見た各学年の指導上の課題の抽出と重点的な指導を実施する。	本項目の職員評価（4段階）は2.7であった。職員研修の中で、5月に過去3年間のＣＲＴ検査（国語科・算数科）の分析を行った。過去3年間いずれも落ち込んでいる内容を把握し、今年度、重点的に指導できるようシートにまとめた。また、現在の学年で、昨年度の落ち込みを把握し、本年度内に補充・関連指導を行うようにした。	3	**【肯定的な意見】** ・　小中との連携、県教委や市教委の指導訪問等、自分の授業を見直し、より分かりやすい授業づくりのために職員相互で研修するなど努力されていることがよく分かります。理解できれば子どもたちは伸びます。コロナ禍の中、授業日数も不足する中大変でしょうががんばってください。 ・　中学校と連携しての取組は今までにないもので評価できる。 ・　授業改善において「4つの重点指導事項」を確定し、先生方が共有できたことは「ぶれない」教育指導として、児童や保護者にとって安心できるものとなると思います。 ・　中学校への調査や意見に基づいた、一貫教育の推進は、小学校での指導要点が明確になり、児童にとってストレスの少ない中学校進学となり、充実した中学校生活のスタートがきれると考えられる有意義な施策と思います。中学校との連携をさらに深めて継続して取り組んでいただきたい。 ・　教育委員会等から指導を受けた内容を職員全体で共有化する取組はとてもよいことで、先生方の力もさらに高まるのではないでしょうか。 ・　中学校から見た小学校での指導の足りない面については、新しい視点での取組で、ぜひ整理されていることを指導に生かしてほしいと思います。 **【課題や今後の要望】** ・　学力の項目については、山之口小の児童の学力等の判断材料があまりなく評価しづらい面がある。 ・　中学校の先生方の出前授業なども児童の興味・関心・意欲につながるのではないでしょうか。 ・　2年生の3校合同学習体験はお互いによい刺激になり、よりよい学びの場になると思うので早く実施できるようになることを願っています。 ・　学力の定着は先生方の指導が大きく影響します。先生方から褒められた経験によりその教科や勉強が好きになったり、逆に叱られてばかりだと嫌いになったりします。学力を定着させることは大変苦労の多いことだと思いますが、よろしくお願いします。 ・　家庭で机に向かう習慣付けは、保護者の協力も必要不可欠です。よりよい連携をとっていただきたい。	3.1
	重点支援校訪問を生かした授業力向上	重点支援校訪問で指導を受けた改善事項を学校全体で共有化する。	本項目の職員評価（4段階）は3.4であった。県教育委員会から出された授業改善のチェックポイントをもとに、研究授業を行い、都城市教育委員会及び南部教育事務所から各職員が個別にフィードバックを受け、自分の授業の課題を把握することができた。また、その際に指導された改善事項を学校全体で共有化し、今後の学校としての重点指導事項を以下のように決定した。①発言すべき時、無言で聞く時のけじめを徹底する。②活動の前の指示を明確にし、追加の指示は行わない。③習熟の低い児童への手立てを工夫し、見届けまで確実に行う。④掲示物、ホワイトボード、実物投影器等を活用する。以上4項目である。実践を始めている。	3		
	小中一貫教育の推進	中学校から見た小学校で定着の必要な指導内容の抽出を行い、各学年の指導に反映させる。	本項目の職員評価（4段階）は3.0であった。5月に山之口中学校にお願いし、各教科からみて小学校時に定着してほしい内容を各教科別にまとめてもらった。6月には、それを定着させるためには、どの学年でどの指導を重点的に行う必要があるのかを学年毎に関係する内容を拾い上げ整理し指導に結びつけた。また、中学校から出された学習態度（発表の仕方、話の聞き方、ノートの取り方、返事、学習準備等）については、全学年に共通するものであり、即指導できるようにした。	3		
	ねらいに応じた合同学習の推進	対話的で深い学びにつながる合同学習の計画と実施を行う。	当初の計画では、6月、11月、1月に3校（山之口小、麓小、富吉小）の児童が集まり、多人数の中で学校生活を体験したり、多様な考え方に触れたりすることを通して、対話的で深い学びにつながる合同学習を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となった。次年度は実施の方向で検討いく。	3		
たくましい体つくり	新型コロナウイルス感染防止対策の確実な計　画と実施	学校での行事・取組・生活において感染防止対策の観点から見直しを図る。	本項目の職員評価（4段階）は3.5であった。日頃の教育活動から行事まで、「学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル」を基にしっかりとした感染防止対策をしながら可能な限りの教育活動ができた。日常の指導や行事等の一つ一つに丁寧に感染対策を講じ、全職員で共通理解を図り、共通実践ができた。また、保護者に対しても学校における感染対策について説明をしっかり行い、理解と協力を得ることができた。	3	**【肯定的な意見】** ・　今年ほど緊急事態時の教育の在り方を求められた時はないのではと思います。その中で「予告なしの避難訓練」等のより現実に即した訓練を実施されていることは貴重だと思います。いつ終息するか分からないこの状況を保護者と連携を図りながら乗り越えていってほしいと思います。 ・　新型コロナウイルス感染防止対策は、こまかな取組が徹底されており評価できる。 ・　命を大切にする取組は、話だけでなく、実際に「予告無し避難訓練」等の活動に生かされていてよい。 ・　学校ではコロナ対策について徹底した取組が進められているのでこのまま気を緩めることなく進めてほしい。 ・　予告無しの避難訓練は防災意識を高める上で期待できるとともに、活動を通して思いやりや協調性も生まれ、日常の行動の基礎も培われると考えられます。大変有意義な取組です。 ・　遠足時に、自分の手作り弁当を皆仲良く楽しそうに食べていて微笑ましかった。 ・　食育の推進で、「子どもが作る弁当の日」はとてもよい取組だと思います。子どもがお父さんと弁当を作ったと喜んで話していました。買い物に行ったこと、何を作ったかをニコニコしながら話す笑顔がすてきでした。 **【課題や今後の要望】** ・　新型コロナウイルスは人間に試練を与えてくれました。児童は感染症予防の方法を学び、一生の財産となるでしょう。プラスに捉えることも必要ではないでしょうか。 ・　人の命は何にもまして大切なものであることを口が酸っぱくな	3.2
	命を大切にする取組の充実	予告なしの避難訓練と有事に備えた引き渡し訓練を計画・実施する。	本項目の職員評価（4段階）は3.5であった。6月には有事に備えての引き渡し訓練を実施した。昨年度、学校敷地法面の一部が土砂災害警戒区域に指定されたため、本年度は引き渡しの経路や手順を大幅に変更して実施した。保護者の協力も得ることができ、新型コロナウイルス感染防止の対策も講じながら実施することができた。同じく6月には、児童に対して予告なしの不審者対応避難訓練を実施した。都城警察署生活安全課の協力も得ながら、児童も職員も緊張感をもって取り組むことができた。8月には、児童及び職員に対して予告なしの地震の避難訓練を行った。11月には、児童に対して予告なしの火災の避難訓練を実施した。都城北消防署及び防災設備会社の協力を得て、消防車の出動に始まり、火災避難の仕方、消火器の使用方法について指導していただいた。 予告なしの避難訓練を行うことによって、有事の際にどのような行動をすべきかについて、緊張感をもって訓練を行うことができ、課題も明らかになり対応策を講じることができた。次年度も予告なしでの避難訓練を継続して実施していく。	3		

たくましい体つくり	健診結果を活用した健康な体つくり	自分の健康に対する関心を高めるために、健康診断後の治療率の向上に努める。	本項目の職員評価（4 段階）は 2.6 であった。1 月 31 日現在、全校児童 231 名中、むし歯のあった児童が 33 名、そのうち治療の終わった児童が 17 名（51%）、未治療の児童が 13 名の状況である。これまでに保健便りや対象家庭に手紙を出すなど機会あるごとに啓発を続けてきた。また、冬季休業前には、個別に健康指導を行い、児童の健康意識を高める取組を実施した。今後も治療が進まない家庭については個別に根気強く働きかけをしていく。	3	るほど教えてください。 ・ 自分の健康に目覚める。よい事です。健康に対する智恵、知識がその人の一生の「幸福度」を左右するといって過言ではありません。小学生のときからしっかり身に付けさせてください。 ・ 食に対する正しい理解は健康な生活の必須条件です。栄養に関する知識を身に付けた人は「一生の宝」をもって幸福な人生を送ることができます。指導をお願いします。 ・ むし歯等の治療については、家庭の事情もあると思うので、学校の呼びかけに対応していただけないのは苦慮されていると思う。 ・ コロナ禍で運動の機会もかなり減ってきたが、たくましい子どもの育成のためには、学校だけでなく PTA や地域のスポーツ少年団、地域公民館も一緒になって子どもたちにスポーツの機会を与えられるとよい。 ・ 「自分の命は自分で守る。」ことの方法を繰り返しの訓練の中で身に付けほしい。 ・ 弁当を作る楽しみと同時に、親への感謝の気持ちに気付く食育であってほしいと思います。 ・ 新型コロナウイルスの感染防止策で、なぜ手を洗う必要があるのか、なぜマスクが大切なのか等、子どもたちにも分かる形でウイルスについて学習する機会があるとよいのではないでしょうか。意味が分かって行うと取り組み方も変わってくると思います。	
	弁当の日等を利用した食育の推進	食に対する望ましい理解を深めるために「子どもが作る弁当の日」の実践の充実に努める。	本項目の職員評価（4 段階）は 2.7 であった。本年度は、当初の計画では、これまでに 4 回（春・秋遠足、夏季休業、収穫祭前日）実施予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、夏季休業中及び秋の遠足時の 2 回実施した。児童の実践報告からは、楽しみながら実践している児童と、ほぼ保護者がやっている児童の二極化傾向にあるようである。弁当の日の取組についてはコースの内容も含めて改善していきたい。小中一貫の取組にもなっているので、他校の実践も参考にしながら検討する。弁当の日に合わせて学級活動の食育に関する内容を指導するなど児童が意欲的に取り組めるような働きかけを行う。5、6 年生は家庭科とも関連させる。夏季休業中は児童も保護者も取り組みやすかったようなので次年度も継続したい。	3		
開かれた学校づくり	コミュニティ・スクールの更なる充実	コミュニティ・スクール体制を活用し、熟議を通して学校教育の質的向上を図る。	本項目の職員評価（4 段階）は 2.8 であった。本年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響で当初の計画通りの実施ができなかったため熟議にはいたらなかった。短時間ではあったが、学校の教育活動や新型コロナウイルス感染症への対策等については説明することができた。また、児童の様子も運動会や学校運営協議会の際に、見ていただくことができた。	3	**【肯定的な意見】** ・ ホームページは学校の主な行事や児童の様子がよく分かり、内容も充実していると思います。今の時代のツールとして、保護者も学校への理解が深まります。更新を継続して行っていただきたい。 ・ 校長先生から毎回丁寧に学校の現状や教育活動について説明を受け、その中で先生方のご苦労もよく分かり、頭が下がります。授業参観や運動会等を通して児童も先生方も笑顔でコロナウイルスに負けじと頑張っている様子が十分伝わってきました。 ・ ホームページで県外在住の祖父母の方から喜びの声があったとお聞きし、ホームページの情報発信力のすごさを感じました。今後も大いに発信していただきたい。 ・学校の方針や学校の取組を学校便りやホームページで定期的に発信されていて、すばらしいと思います。 **【課題や今後の要望】** ・ 今年度については、どうしても学校に人を集めることが難しい状況で協議等ができなかったのは仕方ないことだと思います。ホームページ等、今、広報ということがかなり重要になってきています。さらに充実を図ってください。 ・ 今「子ども食堂」「食糧支援」の活動を聞きますが、見えない貧困という問題がコロナの影響もあって高まっているのではないかと危惧しています。 ・ コロナ禍で地域の人材を活用することができなかったが、地域は公民館単位でスポーツや文化活動に取り組んでおり、優れた人材もいる。収束後にはぜひ活用してほしい。	3.1
	働き方改革の推進	学校における働き方改革を具体的に推進する。	本項目の職員評価（4 段階）は 2.2 であった。学校の工夫による独自の取組では、①長期休業中の会議及び研修の効率化と削減、②毎週金曜日のリフレッシュデイ（定時退庁）及び水曜日のプチリフレッシュデイ（18:30 退庁）の設定、③毎週水曜日のみ児童の昼休み時間をカットし、放課後の時間を確保することで、会議の集約と学級事務の時間の確保を図る。以上３点を中心に実施した。また、教職員一人一人の取組として、資料や学習プリントの共有化、学年や校務部データの整理、ＩＣＴの活用、業務の優先順位を付ける等の取組も見られた。今後、さらに、業務内容の見直しを図りながら推進していく必要がある。	3		
	積極的な学校情報の発信	学校の方針や取組を広く広報するために学校便りの発行とホームページの活用を推進する。	本項目の職員評価（4 段階）は 3.8 であった。学校の方針や取組を広報するために、定期的（毎月１回）に学校便りを発行した。また、ホームページを活用し情報発信を行った。１月３１日（日）現在、更新回数は１８６回（授業日数１６２日）である。新年度がスタートした時の山之口小学校のホームページのアクセス数が５２,５００人で、1月３１日（日）現在、訪問者カウンタを見ると、８４,４０５人となっている。本年度になって延べ３１,９０５人の方に本校のホームページを閲覧していただいたことになる。今後も積極的に発信していく。	3		
	特別支援教育体制の充実	適時、適切な校内就学指導を実施するとともに、様々な関係機関との連携を推進する。	本項目の職員評価（4 段階）は 3.1 であった。特別支援教育推進委員会及び就学指導委員会については、定期的な会と臨時的な会を実施した。児童のアセスメントや保護者の意向も踏まえながら、専門機関とも連携し、児童やその保護者にとって望ましい方向性が出せるよう、本校の特別支援教育コーディネーターを中心に丁寧さとスピード感をもって取り組むことができた。	3		